

和のこころ よびさます

文化
なかの

中野市公民館報

2013

No.96
(通巻 No.628)

3

発行
中野市中央公民館
編集
文化なかの編集委員会

〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
TEL 0269-22-2691
FAX 0269-26-2342

「ちはやふる」の世界へ

豊田公民館では、2月9日(土) 小中学生を対象に競技かるた講座「百人一首かるた会」を開催しました。競技かるたは、自陣と敵陣に並べた札を取りあい、自陣の札を早くゼロにした方が勝ちとなり、送り札や札の置き方など戦略性に富んだ文化的スポーツです。一般からも一緒にかかるたをしてくれる方を募集したところ、中野西高校百人一首同好会をはじめ、高校生から年配の方まで参加していただき、世代を超えた交流ができた。対戦も非常に盛り上がりました。

とれた!

「普段家ではなかなか百人一首をやることは出来ないのですが、今回お手伝いでの参加だったはずなのですが、その事をすっかり忘れて楽しんでいました。こういった企画はとても素敵だと思います。次回も参加したいと思います」と参加してくれた高校生からうれしい感想をいただきました。豊田公民館は、こういう方を大事にしなから、一緒に豊かな中野市をつくっていきたいと思っています。

今月号の特集

なかの21市民講座
エノキタケに秘められた
無限の可能性

あおぞら

目が覚めると「今日
はどんな日だろう」と
思う。予測できない気
象・環境の変化。政治
が変わり生活も変わる。
「今までは…」が通用
しない。見通しが持て
ない日々。幼いころの
のんびりした風景や生活が好
きだった私には、少し抵抗感
がある。息子と意見がくい違
った時「僕は平成に生まれ
たんだ。昭和生まれじゃない」
と切り返され「いい訳だ…」
と怒ってはみたものの、冷静
になると、時代が変わり価値
観が変わってきているのは事
実だ。

さて、今までは違うこれ
からをどうしたらいいのか？
今の私が思うことは、現実を
受け止める柔軟な心を持ち、
時代が変わっても「人として」
本当に大切なこと、価値観は
何なのかを学び、自らを律し、
次の世代にさりげなく伝えて
いく。そして、辛抱の時もマ
イナスでなく、明るく前向き
な思いで捉えていきたい。
でも、時々不安な思いが押
し寄せてくる。そんな時、に
っこり笑って「心配するな。
まじめにさえ生きていれば大
丈夫だ」と父の声が聞こえる。
「そうだよ。さて、今日も
頑張ろう」
(チロリン)

なかの21市民講座

お天気キャスター 森田正光先生講演会

天気予報をもっと身近に

— 生活の目安として活用を —

2月10日(日)午後1時30分
から中央公民館 講堂で、お天気キャスターの森田正光先生をお迎えし「テレビでは言えない天気の話」と題して講演会が開催されました。

なかの21市民講座実行委員会では、東日本大震災や長野県北部大地震、地球温暖化による集中豪雨や土砂災害、竜巻などの自然災害が日常的に発生している中で、市民の防災減災の意識を高めていただくために計画しました。

森田先生は、親しみやすい語りで、「地球に住む私たちにとって最も恐ろしい災害は干ばつ



ユーモアも交えて

田先生は「大まかにいうと、地上気温が3度以上だと雨、2〜3度でみぞれ、1〜2度で雪、1度以下で積雪となります。その日の東京の最低気温は1.6度でした。日常では、前日の予報気温が平均で2度はずれれる現状で、1

で、作物が収穫できず伝染病などが発生して大勢の方が亡くなってしまう」「産業革命以来明らかに地球の温暖化が進んでおり、この100年間に温度が3度上昇しています。最初に影響を受ける植物が減ると、バクテリアなどの微生物がいなくなり、やがて動物にも影響が及び生態系に大きな影響が出てしまいます」と話されました。

また、参加された方から、笑顔で「成人の日に東京で大雪が降ったが、前日の天気予報がはずれ大混乱をまねいたことについて気象予報士としてどういう反省をしているのか？」という質問が出されました。森



難しい質問にも軽妙な回答

度の差を前日に予測することは極めて困難です。しかし、テレビというわかりやすさを求めるメディアはYes、Noのどちらかの答えしかありません。現在の社会は複雑化しており、そのどちらでもない事が増えてきています。今の時代その中間の



異常気象のお話

部分を許容していく方が社会は良くなっていくのではないでしようか」と苦笑いしながら答えてくださいました。

当日は寒い中、231名の皆さんにお越しいただきましたが、質問の中でご自身で天気図を書いたり、気象通報を聞いておられる方が多いことがわかりました。目的は登山であったり農作物の栽培であったり様々ですが、天気や自然現象をより身近に感じることができました。東日本大震災、長野県北部大地震を胸に刻み心を新たにしたい講演会でした。



熱気あふれる会場

特集

エノキタケに秘められた無限の可能性



共同によるピン詰め作業（昭和33年）

そうは言っても何の苦勞もなくここまで来た訳ではありません。昭和30年代浅沼徳直氏を中心としたグループの計り知れない苦勞があったからで、当時は汁物以外の食べ方は殆どありませんでした。

みなさんご存知ですか？
約半世紀ほど前、出稼ぎ解消対策に始まり、当初1億3千万円程度の産業だったものが現在150億円産業となり生産量日本一と言われるようになった中野市のエノキタケの事を…。



栽培初期に使われた丸型高圧殺菌釜（昭和40年代）

ようね？食べられる部分を多くする為だったのかなあ…？
それはともかく、今では食材としてだけでなく機能性食品と言われ、ガン抑制効果や血液サラサラ効果に始まりメタボや肥満対策としてあらゆる面でその効果が実証されるようになりました。とは言え毎日沢山食べるのも大変。そこで考えられたの



エノキタケをアメリカへ試験輸出（昭和60年）

が『えのき氷』や乾燥した『干しえのき』なんですね。今では幾つものメディアなどに取り上げられ、中野市民だけでなく日本中で認知されるようになりました。それに併せ『えのき氷』や『干しえのき』入りの商品も開発されるようになり、日に日にその数も増えてきました。



南極で作る野菜第1号に登録（昭和42年）

参加した時は、自分でキノコを作っていたながらも「キノコなんかで活性化できるのだろうか？中野市が元気になるのだろうか？」と思っていました。でも、あれから5、6年確実に一歩一歩いろんな方面の方々の力前に進んでいるように思います。中野市で始まった『日本きのこマイスター』の資格制度もそうですよね？農工商がガッチリ組んでいけば怖いものなんて無いと思いませんか？店先で産地から生産者まで中野市のものを見かけたならば是非応援して下さいね。小市民の私も頑張ってます。



エノキタケを使った数々の商品を開発

こんにちは 分館

金井区は平岡地区にある戸数約250戸の集落です。小さくはなく、大きすぎもせずといったところででしょうか。村部にありますが、世相に合わせて区の運営も改革されてきています。

分館活動は、館長以下5名の役員で、16名の運営委員さんの協力により事業を進めています。

1月は14日に小雪の中、最初の行事「どんと焼き」を賑やかに行うことができました。翌日は大雪でしたので、幸運なスタートとなりました。

区民運動会は分館の最大行事です。

金井分館

少子高齢化や子供たちの多忙化で、参加者が減少傾向にあり、競技を成立させる編成も困難な状況があります。準備の大変さとあいまって、「もう止めようか」という声がありますが、今の金井だからできるし、また、区民が一堂に集い親交を深められる貴重な行事なので、今後の検討課題とし、今年も5月に開催を計画しています。

時代の流れでしょうか、金井も自主的なサークル(文化)活動が次第に少なくなり、恒例の敬老会や文化祭をどうすれば盛会にもっていただけるか、思案のしどころです。

(金井分館長 勝野芳久)

ふるさととの歴史

金井の本水寺の古記録に「金井の村は戦国時代末、文禄二年(一五九三)に上屋敷(集落の東方)から引き移った」とある。谷街道が整備され、その道沿いにできた街村なのである。

江戸時代半ばの安永(一七七二～八一)のころ、重い年貢に苦しみ、田畑を質に入れて小作人となった農民が、どの村にも多かった。そのころ、この地方に菜種や木綿などの商品畑作物生産が始まり、北信は油の特産地となる。また、農家の女衆が織る木綿布や紬が中野の市へ大量に売り出されるようになつた。したがって、谷街道を行き

交う旅人や荷物を積んだ馬の往来が急速に賑やかになる。

金井村の農民は、おのずと旅人目当ての小商いを始め、暮らしのたしにするようになった。寛政年間(一七八九～一八〇一)には、木綿布・紬、ろうそく・酒・油を売るいくつかの店がで

き、文化年間(一八〇四～一八)になると穀屋・材木屋に豆腐屋(食堂)までできた。文政年間(一八一八～三〇)になると煮売屋(食堂・一杯屋)をはじめ菓子屋・紺屋(染物屋)が開店。天保年間(一八三〇～四四)には、

宿場風の村金井

煮売屋が四軒、茶屋が一軒に。嘉永年間(一八四八～五四)には魚屋も。屋敷をとり旅人、荷馬を店の前の木につないで一杯飲んで行く馬方。宿場のようだと、金井の文書が伝えている。

幕府の方針を受けた中野代官所は、村役人に「村人に百姓は本務の農業に精を出すよう監督せよ」と触れを出すのが、一時的なもの。金井は中野・飯山の中間ではないが、時代を読み、立地条件を生かして活路を見いだす金井の村人の積極性がよくみえている。昭和三〇年代まで、金井商工会の活躍はみごとに続いた。

(阿部 敏明)



区民運動会の綱引き

年中行事を大切に



チューリップの絵柄に感激!

中央公民館で2月2日(土)・6日(水)に、やしようまづくりが開催されました。

当地方では、春の雪溶けを心待ちにしながらか、お釈迦様の入滅(命日)に合わせて、各家庭ごとに趣向をこらして作った色とりどりのやしようまを仏壇に供える年中行事があります。子どもたちは「やしようまひき」として各戸を廻りもらって歩いたものでした。

初めて挑戦したみなさんは、中野市食生活改善推進協議会のみなさんのていねいな指導を受け、できあがったきれいなチューリップやバラの模様のやしようまに驚きながら満足した様子でした。

今月の伝言板

講座の詳しい内容につきましては、各公民館までお問い合わせください。

■中央 ☎ 22-2691 ■北部 ☎ 26-0677 ■西部 ☎ 23-1024 ■豊田 ☎ 38-2922

公民館ホームページ <http://www.city.nakano.nagano.jp/kominkan/>

	講座名	日時	場所	講師	備考
中央公民館	きり絵体験コーナー	3月31日(日) 午後1時30分～3時30分	中央公民館 教室	中野きりえの会 の皆さん	<申込み>不要 <受講料>無料 *カッター、材料等は用意してあります。
	パソコンふれあいサロン ＜内容＞パソコンを使用している、わからないところを指導員がお答えします	毎週月曜日 ※祝日、年末年始を除く 午後1時30分～4時30分	中央公民館 団体室 (2階)	NPO 新技術新興会	<定員>6名 <受講料・申込>不要 ※メニューに沿って進めるパソコン教室とは異なります。
	公民館ギャラリー 押花展 押花みずほ				
豊田公民館	リズムで遊ぼう	3月15日(金) 午前10時30分～正午	豊田文化 センター	ドラムサークル諏訪 代表 原 房子 先生	<定員>15組 <受講料>無料 <対象者>3歳未満児と保護者
	チャレンジ子ども教室 生きる力を育むふるさと 自然体験 ～天体望遠鏡で 星空をみよう～	3月16日(土) 午後7時30分～9時30分 ※予備日 3月17日(日) 午後7時30分～9時30分 (16日に星の観察ができない場合)	豊田文化 センター	信州中野 天文同好会 のみなさん	<定員>20組<受講料>無料 <内容>星の観望 <対象者>どなたでも 中学生以下は保護者同伴 <服装>あたたかい服装 <申込み>3月11日(月)まで
	チャレンジ子ども教室 生きる力を育むふるさと 自然体験 ～野鳥の観察～	3月23日(土) 午前8時～正午	豊田文化 センター 集合	信州野鳥の会 出野 富永 先生	<定員>20名<受講料>無料 <内容>鳥の野外観察 <対象者>市内小中学生 <持ち物>おにぎり、水筒、 (持っている人) 図鑑、双眼鏡イラ スト帳など <申込み>3月19日(火)まで

中野市成人式のおしらせ

輝け八つ子～未来に乾杯～

平成4年4月2日～平成5年4月1日生まれの方が対象となります。

中野市に平成25年2月1日現在で住民登録している方を対象に案内状をお送りします。現在、市外にお住まいの方で中野市成人式に出席を希望される方は、事前に中野市中央公民館までご連絡下さい。



期 日 5月4日(土) みどりの日
時 間 午前9時30分 受付
10時 開式
会 場 中野市市民会館ホール

第32回 中野市民書道展

毎年、ひな市に市内の書道愛好者の作品が一堂に会す書道展です。奮ってご応募ください。

出品資格 市内在住・在勤している方、または、市内の書道グループに所属している方

出品数 1人1点まで(未発表の作品に限ります)

出品規格

- 一般の部(高校生を含む)
条幅半折の大きさで、裏打ち仮巻き着装
- 小中学生の部
条幅半折4分の1縦長書、裏打ちをしないで仮巻き着装

申込み 3月19日(火)まで
所定の出品申込書により中央公民館へ申込み下さい

展示期間 3月31日(日)～4月1日(月) 午前9時～午後6時
展示会場 中央公民館 講堂



メジロのペアー？／三好町（E・K）



夜明け前／上今井(替佐の伊吹吾郎)



福寿草／草間（宮澤 聡）



残雪にとまるギフチョウ／斑尾山(湯本明雄)

花と季節の写真募集

宛先

中央公民館
中野市三好町一丁目4番27号

☎ 222・2691
Eメール c-kominkan@city.nakano.nagano.jp

文化なかの編集委員会では、中野市内の花や季節の写真を募集します。未発表写真に限り、四ツ切りまで（ワイドサイズも可）のプリント、デジタルデータ（未加工のもの）、氏名、住所、連絡先、作品名、撮影場所、花の名前等を書き送って下さい。匿名希望やペンネーム掲載はその旨をお伝え下さい。随時募集します。

最近が高齢化に伴い、会員も減少しているとの事ですが、花を愛でるといふ日本の素敵な文化もあり、是非とも続けていって頂きたいです。



輝いていきます

「越さつき愛好会」30年以上続く歴史ある愛好会です。地元では年1回、会員の皆さんが手塩にかけた自慢のさつきを持ち寄り、花見会が行われます。写真は昨年6月の花見会の様子で、中には30年や40年以上の古く貴重なさつきも多く、愛情を注いだ歴史の深さと様々な彩りで癒してくれます。「今年は開催時期が遅れたのと、気候の影響で集まるかどうか心配でしたが、沢山の見事なさつきを出品してもらえてうれしい」と、会長の池田陽一さんが語って下さいました。また、隣の赤岩地区のみなさんからも出展頂き、更に豊かな花見会となりました。